

「細尾」から徳川将軍家に納品

十日町「加賀屋」、越後縮を上納

江戸期の資料発見、「和宮」「篤姫」の名も

歴史ある織物業の地、十日町市で徳川将軍家に最高級「越後縮」を納品していた記録が見つかり、それも「和宮」「篤



学術的にも貴重な発見となった和紙の資料(3日、情報館で)

姫」、さらに第14代将軍・徳川家茂と見られ、織物業地・十日町が江戸期から全国有数の産地だったことが判明。なかでも産地の一つ「細尾(ほそお)」の地域名が古文書に記され、同市の細尾地域では「驚きた」と関心が高まっている。

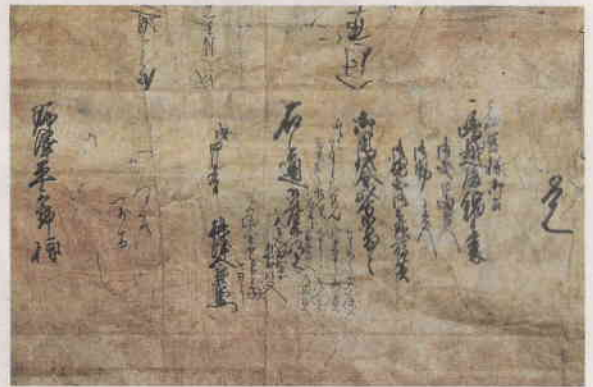
10年前の中越地震で被災した市内の老舗呉服問屋「加賀屋」(蕪木家資料)の整理中に発見。屏風を包んでいた和紙に記述があった。当時は縮緬の見本を和紙に張り、問屋を通じて注文を受けた。そ

の不要になった和紙を張り合わせ屏風を包んでいた。さらにこの和紙には越後縮を納品した「覚」(納品書控)もあり、ここに「和宮様御召」「天璋院様御召(篤姫)」、さらに徳川家茂とみられる「御本丸別段御好」の記述がはっきり残っている。

さらに納品書控「覚」には「御丈三寸五分」「御巾九寸三分」など身丈も明記。「和宮」と「徳川家茂」の身長は資料で明らかになっており、サイズはこれと合致する。同

様に「篤姫」も寸法が明記されており、「ほぼ間違いないと思われる」とする。加賀屋の資料は、江戸期に繁栄した十日町の縮問屋「村松屋」(根津五郎右衛門家)から引き継いだもの。納品は「御召縮」の品名で最高級の越後縮。さらにその納品元として「細尾 助十郎」の書込みが記されている。

「細尾」は市内の旧水沢村。現在40戸で織物業はないが、同地の80代



右端の文頭に「和宮」の記述がある越後縮の納品書控の「覚」

「三井越後屋」(現在の三越)で、歴史的資料を収蔵する「三井文庫」には当時の村松屋との取引を証明する資料があり、十日町・細尾から将軍家に越後縮が納品されていたようだ。資料は加賀屋・蕪木元昭氏が所蔵。資料公開の予定はないが、織物のまち十日町の貴重な資料になっている。

男性によると「助十郎」という屋号があったという。「いまは違う屋号だが、機はしてなかったと思う。これが事実ならすごい。細尾の新たな歴史になる」と驚いている。歴史的な資料の発見について市教育委員会の高橋由美子主任は「当時、将軍家に十日町から越後縮が納められていたという史実を裏付ける貴重な資料」と話している。同資料は加賀屋・蕪木元昭氏が所蔵。資料公開の予定はないが、織物のまち十日町の貴重な資料になっている。